

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501417		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	南光台ケアセンターそよ風グループホーム	ユニット名	なし
所在地	仙台市泉区南光台南2丁目26番10号		
自己評価作成日	平成26年 7月27日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の少しでも多くの笑顔を大切にしていきたいと考えています。最近ではボランティア活動に力をいれております。毎月1回の音楽体操と日本舞踊の他にも、小学生による『よさこいソーラン』の披露発表会や古川のボランティアによる『フラダンスの披露発表会』や中学生の吹奏楽部による演奏会などを行っています。地域の皆さまとのつながりを大切につつ、入居者様が生き生きと過ごせることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中の急峻な高台の上にあり、眼下及び左右に広々と街並みを見渡すことができる。遠景に「シェルコムせんだい」の白銀のドームが見え、さらに遠くの背景に泉ヶ岳と周辺山並みを望むことができる。施設と地域住民との連携は密で、ボランティアの訪問、小学生の「よさこいソーラン」披露、中学生の職場体験、大学生の実習受け入れ等、事業所の力を活かし地域に貢献にしている。災害訓練でも地域住民が参加し入居者の避難誘導にあたる等、地域と一体化した活動をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:南光台ケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様に寄り添うケア」を大切に理念として掲げています。ホールに見えるように掲示し共有に努めています。	理念について振り返り、「入居者に寄り添うケア」の理念とした。入居者への心の寄り添いを大切にし、入居者の「食べてみたい、行ってみたい」等、思いの細部を把握し、その実現に向け努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回の2種類のボランティアにより音楽体操や日本舞踊などの来所が定期的に行われている。また、地域住民との避難訓練や3か月に一度のごみ集積所の清掃活動に参加している。	地域のボランティアによる演芸披露は、ホーム職員の積極的な働き掛けによって実施されている。また町内のゴミ集積所の掃除当番を入居者も一緒に実施し、地域住民の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南光台中学校・南光台東中学校の職場体験の受け入れできる体制を整えている。今年東北福祉大学からの学生の実習先として行け入れる予定がある。認知症についての理解に触れる場として活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月(奇数月)の最終土曜日に開催している。施設での取り組みについての報告に対してご意見を賜り話し合いを行っている。	年6回実施している。地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、家族代表等が参加している。参加者からボランティアの斡旋・紹介や、町内の祭りに入居者が参加する等、双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や地域運営推進会議を通して、地域包括支援センターの方々と情報交換を図るとともに協力関係を築けるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の、ケアマネジャーが集まる「地域ケア会議」に参加し、情報交換に努めている。市役所とは一人暮らし等の情報や事故の場合の対応等、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物そのものが道路(市道)に面しているため、安全に配慮して施錠とアジャスターロックを設置している対応を行っているが、極力施錠をしなくても安全面を配慮できる環境を目指していけるように模索している。	身体拘束・虐待については勉強会等で職員は理解に努めている。施設周辺の道路は交通量も多く急峻な斜面もあるので、入居者の自由な出入りは制限している。外に出たい入居者には職員が可能な場合付き添うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター内で身体拘束の廃止・虐待の防止委員会を設立している。2か月に1回各セクションの担当者が集まり、事例がないかを検討し、話し合いを行っている。事例がない場合は勉強会を実施して意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はみられていない。権利擁護に関する制度の理解の機会はないため、今後の研修の年間計画に盛り込んで理解を深めていけるよう取り組んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込み前に、極力、事前にご本人様とご家族様に施設内見学と説明を受けて頂く様をお願いをさせて頂いている。契約の際には、十分説明を行ったうえで同意の署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査アンケート・家族会・ご家族様面会時を通して、ご意見・ご要望等を伺い、運営に反映させている。	独自にアンケート等調査を実施し、入居者・家族の意見を聞いている。家族から、歯科訪問の回数減や食事前の嚥下体操の取り入れ等の要望が、ホームの運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングとカンファレンスと2カ月に1回の内部勉強会を通して、職員間の情報交換を行い、ケアの統一を図るなどの取り組みを実施している。	カンファレンスや職員全員が集まるミーティングで意見を聞き、食べ物の飲み込みの低下した入居者への調理の工夫や、排泄の機能低下した入居者へのケア等、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談及び随時面談を実施し、各職員が意欲を持って業務に取り組めるよう実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては人員の問題上、確保が困難なのが現状。(掲示板には随時案内を告知) 施設内研修に関しては定期的実施し、知識向上に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域開催におけるケア会議等に出席し円滑な連携が図れるよう取り組んでいる。又直近では病院主催の会合にも出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近、本人様がどのような生活の歴史を送られてきたのかをご家族様にバックグラウンドアセスメントとして記入して頂き、本人様の安心につなげられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階で、ご家族様の要望や思いなどを伺っている。入居後においても信頼関係を築けるようにご家族様の不安な思いや要望などに耳を傾けて、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ニーズに合わせて、利用可能なサービスの検討を行っている。申し込みの中から緊急性の高い方から優先的に入所できるよう取り組んでいる。入所判定会の際には家族の状況も踏まえ入所決定を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、食器拭き・食器の後片付けや洗濯物たたみなどの日課を通してたたみ方を教わったり、共に過ごし支え合う関係を目指して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を通して、相談を図りながらお願いして、消耗品の注文などを行って頂いたりして本人様を支える関係を目指して取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前にご家族様より連絡を頂ければ、ご自宅への外出・外泊などが出来るように支援することでなじみの人や場所などの関係を継続するよう努めている。	年末年始に自宅に外泊したり年に3～5回外出する入居者がおり、馴染みの生活を楽しんでいる。近所の馴染みの理髪屋に行っており、体調が優れない場合等にはホームに来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の入居者様の様子や会話を通して、トラブルや孤立することなく関われるよう、状況によっては職員が介入するなどの配慮の工夫を図り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族の相談・施設として出来ることの情報提供を行い、本人様・ご家族様が困らないように支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いをくみ取る『○○したいノート』を作成し、意向の把握に努めている。行事や日常生活に活かせるよう努力している。	入居者と料理の広告を眺めて「美味しそう、これ食べたい」等の会話から要望を把握し記録している。言葉で表現できない入居者には動きや表情の観察及び家族から情報を参考にし、要望を実現できるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントの活用や3カ月に1回の援助計画書の見直し等を行いながら、なじみの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過や家族支援経過などを通して1日の過ごし方の中で、心身の状態を把握しやすいようにキーワードを盛り込んだ書式にするなどの工夫にて状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護援助計画書の見直し作業においては、職員全員が評価を行い、担当者がまとめて管理者が最終確認を行い、次回の援助計画書に反映するよう努めている。	評価の時期に、「入居者に関する気付き」を提出させ、全職員が参加するようにしている。家族の要望、医師の意見や法人の看護師の意見も取入れ、服薬の確認、便秘対策等、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過や日々の申し送り内容にて日々の様子やケアの実践の情報共有を職員間で行うことが介護援助計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身状態によっては個別浴槽での入浴が困難なケースもあり、その場合は、敷地内が複合型施設である事を活かして、機械浴を利用することで安心して入浴を楽しめるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや地元中学生による職場体験や地域の町内会の取り組みや行事に参加の充実を目指すよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望により往診クリニックで月に2回の定期受診を受けている方が5名、家族通院の方が4名いる。家族通院の中にはご家族様の心身状況にて通院が困難な方がおり、家族希望で職員対応	「仙台往診クリニック」と家族が独自に契約し事業所に来てもらっている。通院の際は家族から聞いてホームの医療記録に記録し管理している。職員が2ヶ月に1回通院の対応をしている入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職の配置がない。敷地内が複合型サービスの特性を活かし、デイサービスの看護師からの助言やアドバイスを相談できる環境を大切にして今後も支援に役立てていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の入院先への情報提供を通して既往歴や普段の様子や認知症特有の症状などを共有するよう努めている。今後は地域の病院関係者との関係づくりに努めていきたいと考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関する指針を基に、ホーム内での限度範囲内で最大限の支援を行うことをご家族様に説明している。協力医療機関として仙台オープン病院との連携を図っている。	重度化に対する施設の指針を基に、施設での支援可能な限度を、今のところ「入居者が食事を摂れるまで」を目安にしている。家族にも説明し了解を得ている。それ以上重度化した場合は会社系列の特養(翔裕園)への紹介も考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートの見直しを行い、現在は書き込み式の書式へ変更している。また、熱発やけいれんなどの症状に対しての対応方法についてもマニュアルを作成しつつでも見れるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。近隣の地域住民の方々にも参加して頂き、避難の際のお手伝いや水消火器を使っての初期消火の訓練にも参加して頂き、協力体制を図れるよう支援している。	災害訓練は計画的に実施している。管理者の働きかけにより地域住民も参加し入居者の誘導支援にあたる等、地域と一体化した訓練をしている。しかし、反省点や参加者等の記録がない。	実施計画は詳細であるが、訓練後の反省点や参加者等の記録が無く、避難要領の改善点に活かされていない。また、災害訓練に消防署の立ち会いをしてもらうのが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待にならないように注意して対応している。排泄時の羞恥心への気遣いや、日頃の声がけにおいても言葉使いに気を付けて対応していくよう努めている。	命令口調にならないよう、言葉使いに留意し、食事に誘う場合、優しく語りかけるよう気を付けている。排泄時は人に見られないようにし、声掛けも耳の傍で他の人に聞こえないよう小声で話し掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替えを一緒に選んだり、入浴剤を選んで頂くなど自己決定を大切にしたケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なじみの生活環境において10時頃まで休んでおられる方がいるので、その方に関しては、ご家族様と相談して朝は、ゆっくり休んで頂き、こちらからの起床の声がけは行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時に自分で着たい服を選んで一緒に準備する対応や外出時にも同様の対応することで一人一人の個性や好みを尊重できる支援を目指して努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時の検食を職員一人が対応している。入居者様と一緒に食べている。毎月の外食行事に入居者様の食べたいものにするこことや、日々の中で調理のお手伝い等の支援を図っている。	行事食として、「駅弁フェア」と称し、全国の弁当の味を楽しんだり、「美食まつり」でご馳走を作って楽しんでいる。職員は1人が検食で入居者と一緒に食事しているが、他の職員は見守りに重点を置いて支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量を記録に残して状況を把握できるように努めている。入居者様の心身状況により食事形態を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせた口腔ケアを実施している。うがいができる方には行って頂き、義歯の洗浄を職員が行うなど、お一人お一人に合わせて実施。週1回の訪問歯科にてクリーニングを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の心身の状況に合わせた排泄を実施している。排泄チェック表を通して排泄パターンを把握できるよう努めている。オムツ使用している方は現在は3名。居室内で臭い等にも配慮した支援を行っている。	介護度が上がりオムツを利用する入居者も増えてきている。オムツを替える時の消臭や外から見えないように配慮している。入居者の体調等を見て可能な場合、トイレでの排泄支援の努力を期待したい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を極力多めに对应するための工夫として嗜好に合わせた飲物の提供などを行っている。個別にて飲むヨーグルトの提供やジュースの提供。ストローを使用することで飲まれる方など工夫を凝らして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。気分等によって入浴を拒否される場合は、入浴剤を選んでいただくなどの工夫を行い、楽しみと感ぜられるよう心掛けている。	入浴したがる入居者には、「血圧測定です」「熱を測ります」「体重を測ります」等で誘導している。気分転換に向けた工夫をし、取り組むよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な週1回のリネン交換と起床時のベッドメイクにより気持ちよく休むことが出来る支援により日中においても気持ちよく休息をとれる取り組みを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的や副作用においてはケースファイルにて最新の説明書をいつでも職員が閲覧できる環境になっていることで、内容を理解し、注意事項においても留意できるように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、食器拭きやテーブル拭きなどのお手伝いを負担のない程度で行って頂く事で人の役に立つ役割の一つとして感じて頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には、入居者様の心身状態と天候に留意して、毎月外出レクリエーションを実施している。また、外出が難しい方には、近隣の散歩を通して季節感を感じて頂けるよう配慮した取り組みに努めている。	毎月、外出レクリエーションとして実施している。その他に月1回程度の外出支援している。職員の支援体制から一人ひとりのその日の希望に添った外出支援は困難であるが、入居者の要望に沿えるよう、努力を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心されているかたもいるため、その方に関してはご家族様の意向もあり、ポシェットに3000円程のお金を所持して頂いている対応を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より電話の希望があった際には、職員が見守りの中で、お話を楽しまれることで安心してお過ごし頂けるよう配慮した対応を心がけております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・フロアには入居者様が作った折り紙の作品が飾られていたり、写真を飾っていたり、生活感のある居心地の良い環境作りを目指して取り組んでいる。	フロアには職員と作った折り紙や入居者と職員の集合写真が飾られており、玄関に職員の顔写真も掲載している。廊下にゆっくりできるようにソファを置いて、玄関にも椅子や腰掛けがあり、寛げる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角には、ゆっくりテレビを楽しむことが出来たり、廊下の奥にはゆっくりソファでのんびりと過ごす事が出来る環境を整えることで思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れた家具や椅子を持ち込んでいただいたりすることで、居心地よく過ごして頂けるよう配慮した生活空間を目指して取り組んでいる。	ベッドとタンスは備え付けであり、入居者は使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真を飾る等居心地よい居室にしている。景色が見えるよう窓を塞がないよう配置し、入居者の動線に考慮しベッドの位置を調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には自分の部屋と分かるように顔写真や表札を貼ったり、看板を設置することでわかりやすい居室を目指して取り組むことで安心して居室には入れる環境を目指しています。		